

平成二十六年 度

神奈川学園中学校入学考査問題

国 語

(A-1日程)

時間 五十分

- 問題は、一ページから十三ページまであります。
- テスト開始前に、問題用紙のページに脱落がないかどうか確認下さい。
- 解答はすべて解答用紙に記入下さい。
- 文中からのぬき出しや答えに求められている字数は、各問いの指示に従い下さい。
特に指定がない場合は、句読点などの符号ふくごうを入れても入れなくてもよい。

問題一

次の(1)～(10)の——線部の漢字はその読みをひらがなで書き、カタカナは漢字に直して書きなさい。

- (1) テニスをやるのにゼッコウの場所だ。
- (2) オクガイで遊ばせる。
- (3) 実力の差をツウカンした。
- (4) サイシンの注意をはらう。
- (5) 新しい学校にもうナれた。
- (6) 河口からつり船を出す。
- (7) 君に仕事の一切をまかせた。
- (8) 富士山に登頂する。
- (9) 生徒を交えて話し合う。
- (10) 胸を反らせて歩く。

問題二

次の文の空らん^かに当てはめるのにもっともふさわしいものを、それぞれ次のア～オから選び、その記号で答えなさい。

- (1) 彼女は、() 子どものようにはしゃぎまわっている。
- (2) 自分で決めたやくそくは () 自分からはやぶるまい。
- (3) 今の調子のままでいけば、() うまくいくだろう。
- (4) () できないことがあったら、ぜひ相談してください。
- (5) こよみの上では春なのに、() あたたくくならない。

- ア たぶん
- イ 少しも
- ウ まるで
- エ もし
- オ よもや

問題三

俳句には、一句の中に「季語」という季節を表すことばを入れることになっています。次の俳句から季語をぬき出し、その季語が表わす季節をそれぞれ答えなさい。

- (1) をりとりて はらりとおもき すすきかな (飯田蛇笏)
- (2) 菜の花や 月は東に 日は西に (与謝蕪村)
- (3) やれ打つな はえが手をする 足をする (小林一茶)
- (4) 流れ行く 大根の葉の 早さかな (高浜虚子)
- (5) 柿くへば 鐘が鳴るなり 法隆寺 (正岡子規)

問題四

次の空らん^かに動物の名前をそれぞれ書き、たとえとして使われる表現を完成させなさい。(ひらがなでも漢字でもよい。)

- (1) () のなみだ……わずかなこと
- (2) () のひたい……せまいこと
- (3) () の遠ほえ……かげでののしること
- (4) () の歩み……速さがおそいこと
- (5) () が合う……仲がいいこと

問題五

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(問題の都合で本文の一部を変えています。)

終わりの会には、『今日の反省』というのがある。〇〇くんが廊下を走ってました、とか、△△くんが掃除をまじめにやっていますんでした、とか、□□くんが女子に悪口を言うので困ります、とか、ほとんど女子が男子のつげ口をするためのコーナーになっている。

発表する女子は大体いつも同じで、竹内さんのグループの子たちが一日おきくらいに手をあげる。その日手をあげたのは竹内さんだった。竹内さんの発表の仕方は、他の女子よりずっとこわい。だから竹内さんが手をあげた瞬間、クラス中の男子はそれぞれ顔を見合わせた。みんなの気持ちは、たぶん同じだったと思う。さあ、今日は誰がおこられるんだろう？ (ア) □□をすくめて、僕は竹内さんの言葉を待った。

「サンちゃんのことなんですけど！」
先生に当てられた竹内さんは、立ち上がるなり怒ったみたいで話した。

「サンちゃんの顔に、いたずら書きをした人がいます！」
その言葉に教室がざわざわとしはじめた。いたずら書き？ なんやそれ？ 小声で話すみんなをよそに、竹内さんは怒った顔のまま、窓際の席の松岡さんに目配せした。合図を受けた松岡さんは、うんと小さくうなずいたかと思うと、そのまま校庭のほうに体を向けて窓の外を指さしてみせた。

「みなさん！ サンちゃんは、あそこにいます！」
それで僕たちは、いつせいに席を立てて窓の方に向かったんだ。え、どこにおる？ ほら、あそこやって！ ああ、ホントや、サンちゃん

竹内さんは怒ったままだった。
「笑いごとじゃありません！ あんなの、動物虐待です！」
竹内さんがそう言うと、教室の中はまたシンとなった。
「書いた人は、正直に言うべきや！」

そう言い出したのは、竹内さんの親友の神林さん。すると竹内さんグループの他の女子たちが、つぎつぎに声をあげはじめた。そうや！ 誰なの？ 手えあげないよ！ 自分から言えば、まだ少しはいいと思います！
ただビクラスのみんなはだんまり。そんな中、僕はといえば、となりの席の吉川くんが、自分の席から立ちあがりもせず、ひざの上の手を置いたままじっとしているのが気になっていた。普段からおとなしい吉川くんだけ、こんなに石みたいにしっと固まっているのはちょっとおかしい。それで僕はチラチラと吉川くんを見ていた。

吉川くんに動きがあったのは、また別の女子が声をあげた瞬間だった。
「私、誰が書いたのか見ていました！」
その言葉に、吉川くんの体がビクンと小さくふるえた。言い出したのは、またまた竹内さんグループの女の子、本橋さんだった。本橋さんは胸を張って立ちあがり、ビシッと吉川くんを指さした。

「犯人は、吉川くんです！」
するとまた教室中がざわざわしはじめた。だけど吉川くんはうつむいたまま。そんな吉川くんに、女の子たちはわんわん言いはじめる。吉川くん、どうして正直に言わんの？ そうや、悪いことしたってわからんの？ サンちゃんがかわいそうやろ！ そうや、笑いのものにされとるんやで？ まるで何を言うか決めてたみたいに、次々と吉川く

や！ みんなの声が飛び交う中、僕も窓から身を乗り出すようにして (イ) □□をこらした。すると校庭のはじっこで、サンちゃんがひなたぼっこしているのが見えた。

サンちゃんは横になったまま、時々しつぽをばたばたさせながら気持ちよさそうに眠っていた。僕らはそんなサンちゃんをまじまじと見つめながら、あれこれ言い合った。落書きって、何が書いてある？ 私、見えんけど？ 俺も見えーん！ それで誰からともなくサンちゃんを呼びはじめたんだ。サンチャーん、こっち来ーい！

みんなの呼びかけに、寝ていたサンちゃんはピンと耳を立てた。そしてすぐに目を覚まし立ちあがった。

僕らに気付いたサンちゃんは、うれしそうにしつぽをぶんぶんふつてこっちに向かって走り出した。僕らは近づいてくるサンちゃんの顔を注意深く観察した。竹内さんがあんなに怒る落書きなら、きつとんでもないものなんだろうって僕は思ってたし、みんなだつてきつとそんな感じだったんだと思う。サンちゃんが教室の窓の下にやって来た頃には、^①教室中がすっかり静まり返ってた。そうして僕らは、だまりこんだまま落書きされたサンちゃんの顔をじっと見たんだ。

「あーりやりや……」
でも、村下先生がそんなのん気な声を出したとたん、大爆笑が起こった。

「サ、サンちゃん、なんやその顔！」
お腹をよじって、笑う子もいたほどだ。僕もうっかり吹き出してしまった。だつてサンちゃんの顔には、三日月形のきれいな太いまゆ毛が書かれていたのだ。そのまゆ毛のおかげで、もともと笑ったようなサンちゃんの顔が、もっと楽しい笑顔になってしまっている。でも、

んを責めていったんだ。最後をかざったのは、もちろん竹内さんだ。
「先生、私思うんですけど！」
そうして^②竹内さんは先生に向かって、演説するみたいに言いはじめた。

「サンちゃんという名前も、吉川くんがつけたんです。^③足が三本しかないからサンちゃん。これは、差別の呼び方だと思います。名前を変えてあげるべきです！」
僕はそれを聞いて、ぼかんと口を開けてしまった。だつて、どうしてサンちゃんじゃいけないのか、ぜんぜんわからなかったんだ。差別の名前？ なんて差別？

クラスみんなも、すぐにそれぞれ自分の意見を喋りだして、教室の中はみんなの喋り声でうるさくなってしまった。それでも吉川くんは、黙ってうつつむいたまま。耳のわきに汗を浮かべて、^④お地藏さんみたいに固まっちゃった。
すると村下先生が、はいはい、みんな静かに！ と手を叩きだした。そうして吉川くんのほうを見て言い出したんだ。

「どう？ 吉川くん、自分の意見言える？」
村下先生が訊くと、みんなはピタリとお喋りをやめて、吉川くんに注目した。
「吉川くん、どうしてまゆ毛書いたの？」

先生の言葉に、吉川くんはそれでもしばらく何か考え込んでいたけど、^A覚悟を決めたよう、^B顔をあげた。そして、消えてしまいうるような小さな声で、^C言ったんだ。
「……かわいいと思って」
すると竹内さんたちは、信じられん！ とか、非常識や！ とか言っ

て、やっぱり吉川くんを責めはじめた。あんなの、ぜんぜんかわいくないし！ いじめやで！ そうや！ 虐待や！ そして最後には、竹内さんが言い切ってしまった。

「こんな人がつけた名前は、やっぱり変えるべきです！ サンちゃんなんて、やっぱり差別の名前です！」

竹内さんにならまれた吉川くんは、しよげ返つたみたいになたうつむいた。^⑤ そんな吉川くんを見ていたら、なんだか僕のほうがむずむずしてきた。おしりのあたりがすぐたくたくて、勝手に体がゆれてしまった。

「あの！ 僕、サンちゃんのままでもいいと思います！」

いつもふざけてばかりで、発表なんてほとんどしない僕だから、みんな驚いた顔をして、いっせいに僕の方を見た。こういうのって、なんだか居心地が悪い。でも、ここまで言っちゃたらもう後には引けない。

「あの、僕……。サムって名前やろ？ ハンサムになりますようにってのを略して、ミーナ……。うちの母親が、サムにしたらしいんやけど……」

すると向こうの女子たちが、すぐにくすくす笑い出した。笑い声にまじって、ハンサムってイケメンてことか？ とか、大島くんて、別にイケメンじゃないよな？ とか、そんな声も聞こえてきた。だから僕は、そうだよな、と心の中でうなづいた。やっぱり、僕がサムって、おかしいよね。

「初めて会った人に自己紹介すると、だいたい笑われます。ヘンな名前だつて、言われちゃう。意味を言っても笑われます。だって僕、ハンサムになつたらんし！」

てしまったみたい。男子たちのほとんどが、次々賛成！ と手をあげていって、女子も半分くらいは手をあげてくれた。

それで僕らは、教室の窓からサンちゃんの名前を呼んでみた。いっせいの、で声を合わせてだ。サンちゃん！ そうしてサンちゃんの名前は、サンちゃんのままでもいいことになった。

吉川くんは、もうまゆ毛を書いたりししないと約束して、竹内さんたちに頭を下げた。竹内さんたちは不機嫌そうに、だけど吉川くんを許してあげていた。うちらだつて、サンちゃんのこと大事に思つとるんやで。そうや、吉川くんだけのサンちゃんじゃないんやし。もうやらんといてよ。たぶん、サンちゃんのおんぶおんぶふられたしつぽを見たら、許してあげるしかなかったんだと思う。

放課後、帰ろうとする僕に吉川くんが声をかけてきた。
「大島くん。さつきは、ありがと！」

だけど僕は、ちよつとてれくさくなつてしまつて、へらへらと笑つちやつた。別に、そんなの、ええつて。すると^⑧吉川くんは、何か言いたそうに、口をぱくぱくと動かしてはじめた。いつもあんまり喋らないから、時々喋ろうとするとうまくいかないのかも知れない。そう思つて僕は、吉川くんが声を出せるのをじつと待った。

「あの、な。サンちゃんの、名前な」

^⑨ちよつとふるふるような声で、吉川くんが喋りだす。

「うん？」

僕は、じつと吉川くんの口の動きを見守る。

「あれ、うちの兄ちゃんと、一緒に考えたんや」

「うん」

「三本、足でも……」

「みんなも、僕が自己紹介した時、おかしくて笑つたやろ？ でも僕は、けつこううれしかつたんや。笑つてみんなが話しかけてくれて。サンちゃんも、同じやと思う。だつて、サンちゃんは、サンちゃんて呼ばれたら、よろこんで走つてきてくれるもん。だからサンちゃんは、サンちゃんていいと思います。差別の名前とかじゃ、ないと思います」

それだけ言つて僕は席に着いた。

僕の発表のあと、^⑥村下先生はしばらくだまつて考えこんでいた。そうして窓の外のサンちゃんのほうに向き直つてから、ひと息ついて言いだした。

「名前を変えるつて、むずかしいことなんや。人間やつたら、裁判所に行つたり、色々せにやらんしな。けどサンちゃんは犬やし、裁判所に連れていくわけにもいかん。そやで、どうやる？ みんなでサンちゃんて呼んでみて、サンちゃんがよろこんでくれたら、サンちゃんのままでもいいことにせん？」

もちろん僕は、まっさきに手をあげた。

「賛成！ 僕、それすごい賛成です！」

だけどクラスみんなは、どうしよう？ つて感じの顔で、まわりの様子をうかがつた。それで僕は、ちよつと^⑦ひるんでしまつた。賛成するのは、もしかしたら僕だけになつちやうかも知れない。でも、一番後ろの席にいた紺野くんが、僕と同じように手をあげてくれたことで、教室の空気はいつべんに変わつちやつた。

「俺も賛成」

紺野くんはクラスの男子の中で一番目立つ人だ。そんな紺野くんが賛成をしてくれたおかげで、他のみんなの気持ちもいつべんに決まっ

「うん？」

「三本足でも、お前はちゃんと走れる。だからサンちゃん」

「ああ……」

^⑩だから、ありがと。大島くん

そうして校庭を歩いていた僕らのもとに、サンちゃんが駆け寄つてきた。もちろんしつぽはふりふりで、まずは吉川くんに飛びついたかと思うと、べろべろ顔をなめはじめた。

吉川くんはめずらしく声をあげて笑いながら、くすぐつてーつて、サンちゃん！ なんて言つて、サンちゃんの首のあたりをめいっばいまで回した。サンちゃんはそのことがうれいみたいで、これでもかつてほどしつぽをふつて、やっぱり吉川くんの顔をまたなめた。まゆ毛が書かれているせいか、サンちゃんはなんだかいつもより笑っているみたいに見えた。

—— 大沼紀子『空ちゃんの幸せな食卓』

問一 線部(ア)「□をすくめて」(イ)「□をこらした」の□に漢字を一文字ずつ入れて慣用句を完成しなさい。

問二 線部①「教室中がすっかり静まり返った」とありますが、その理由の説明としてもっともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 竹内さんの怒りが激しいので、これからどうなるのかと全員がおびえているから。

イ サンちゃんがどんなにひどいいたずら書きをされたのかと思ひ緊張しているから。

ウ 誰がこんなさわぎを引き起こしたのかと、おたがいを疑って探り合っているから。

エ 村下先生が無言なので、いったいどうしてよいかわからず不安になっているから。

問三 線部②「竹内さんは先生に向かって、演説するみたいに言いはじめた」とありますが、この時の竹内さんの様子を説明したものと最もふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 仲間の手前、いまさら主張を変えることができないので言い続けている。

イ 吉川くんを責めることに良心がとがめ、先生を味方にしようとしている。

ウ 自分は正しいと思つて、得意になつて自分の考えを強く言い立てている。

問七 線部⑤「そんな吉川くんを見ていたら、なんだか僕のほうがむずむずしてきた」とありますが、この時の「僕」についての説明として、もっともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 吉川くんが自分の気持ちを説明できないことを、腹立たしく思っている。

イ 吉川くんがみんなに責められて耐えられなくなっている。

ウ 吉川くんを見ているうちに、言いたいことが浮かび我慢できなくなっている。

エ 吉川くんの情けない様子に同情し、自分に注意を引きつきたいと思つている。

問八 線部⑥「村下先生はひと息ついて言いました」とありますが、この時の村下先生の様子を説明したものとしてふさわしくないものを、次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 僕の意見に賛成だが、クラスの子供たちは納得しないかもしれないと思つたためらっている様子。

イ 「サンちゃん」の名前を変えないことを、クラスの生徒にうまく提案しようと思つた様子。

ウ どの生徒の気持ちも大切にしようと思つて、どう言ったらよいかと悩んでいる様子。

エ クラスの生徒たちに、正しい意見が通らないことにいらだちを覚え困っている様子。

エ 先生が自分の考えに賛成せず黙つたままなので、いらだつて責めている。

問四 線部③「足が三本しかないから思ひます」とありますが、竹内さんたちは、なぜ「差別の呼び方だ」と考えているのでしょうか。それを説明した次の文の()にふさわしいことを、本文中から五字以内でぬき出して答えなさい。

三本足の犬に「サンちゃん」という名前を付けて()にしていると考えたから。

問五 線部④「お地藏さんみたいに固まっちゃった」とありますが、吉川くんがどんな様子なのかを、もっとも具体的に説明している部分を、本文中から三十五字以内でぬき出して、はじめとおわりの五字で答えなさい。

問六 文中の□ A～Cにふさわしい語を次のア～エから選び、それぞれその記号で答えなさい。

ア ゆっくりと イ いよいよ
ウ きつぱり エ ようやく

問九 線部⑦「ひるんでしまった」とありますが、「ひるむ」の意味を次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア がっかりする イ 投げやりになる
ウ 元気がなくなる エ 心配になる

問十 線部⑧「吉川くんは、何か言いたそうに、口をばくばくと動かははじめた」とありますが、この時の吉川くんについての説明として、もっともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 僕がへらへらしているので、いらだっている様子。
イ 話を他の人に聞かれないように声をひそめる様子。
ウ 言ったほうがよいのかどうかを、迷っている様子。
エ 気持ちをはやめて、うまくことばにならない様子。

問十一 線部⑨「ちよつとふるえるような声で」とありますが、この時の吉川くんについての説明としてふさわしくないものを、次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

ア 大事なことを伝えようと思つて緊張している。
イ うまく言えないかもしれないと不安になっている。
ウ 僕の誤解を解こうと思つて必死になっている。
エ 感謝の気持ちを伝えたいと真剣になっている。

問十二——線部⑩「だから、ありがとう」と言っていますが、「だから」にこめられた吉川くんの気持ちの説明としてふさわしくないものを、次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

- ア 味方になってくれた僕に対して感謝のことは強く伝えた気持ち。
- イ 竹内さんたちに許してもらったので、調子にのり得意になる気持ち。
- ウ 僕が話を一生懸命聞いてくれる様子に、自信を持った明るい気持ち。
- エ サンちゃんの名前の意味を、僕に説明できてよかったと思う気持ち。

問十三 この文章の特徴を説明した文として、もっともふさわしいものを次のア～エから選び、その記号で答えなさい。

- ア 主人公の子どものことばによって物語がすすめられていくので、読者は先生や保護者の立場に立って読むことができる。
- イ 学校で起こった事件が、話しことばや方言を使いながら描かれていて、読者もその場にいるような気持ちにさせられる。
- ウ サンちゃんの表情や子どもたちの様子などの表現に、たとえを巧みに使っているので、読者の想像力がかきたてられる。
- エ 登場人物の心情を表す部分に必ずかきかっこをつけることで、全体として読者が共感しやすい文章となっている。

問題六

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

「自然を大切に」とか「地球にやさしくしよう」とかの①あたりのいい標語がはやりだして久しいが、地球にやさしくしなくとも、自然を大切にしなくとも、地球や自然は別に何も困らない。現在のところ、人類は自然の生態系に依存して生きていく。……だから、人間が生態系を人間が生存できないほどに改変してしまえば、人類は絶滅してしまい、後に残った生物たちが②それなりの生態系を構成し、進化していくことになる。地球の中に人間ぬきの新しい自然ができるわけでは、別に地球が壊れるわけではない。人間が生存できないほど自然環境を改変してはいけないというのは、自然のためなんかではなく人類が生き延びるためにはそうせざるを得ないからに決まっている。

しかし、こういう当然の考えが出現したのは一九世紀になってからで、それまでの人々はそんなことは考えなかった。③自然の力は人間の力に比べてあまりにも強大で、人類が自然の機能まで変えられるなどと考えることすらできなかったのである。しかし、二〇世紀の半ばを過ぎる頃までには、人間の科学技術力は自然生態系を人為的に改変することができるようになり、ここに自然保護という思想がはっきりと出現してきた。

しかし、イデオロギーはいつの時代でも過激な分派を生み出す。自然を保護するのは人間のためでなく、自然そのものに価値があるため

- (注1) 生態系……動植物と、それをとりまく環境。
- (注2) 依存……たよりにすること。
- (注3) 人為的……人工的。人の手が加わっているさま。
- (注4) イデオロギー……思想・考え方。

だと考える人たちが現れる。④この人たちは自然物にも生存権を与えよ、と主張している。たとえば、加藤尚武は次のように書いている。

「そこで人間だけでなく、自然物そのものに生存の権利があるのではないかという議論が巻き起こった。奴隷に権利を与え、女性に権利を与え、労働者に権利を与え、黒人に権利を与えてきた人間は、今や種や、生態系や、資源や、景色にも生存の権利を認めるべきだという主張が出てきた。

もちろん、そんなことをすれば、牛を食べられない、ダイヤモンドを掘り出せないということになるから、人間は生きていけないという反対論がある。—— 中略 ——

人間は遊びや贅沢をするために動物を殺害している。たんなる好奇心や、趣味のために生命のある自然物を破壊して利用することは自然に対する犯罪である。(ア)人間が生存に必要な以上には自然破壊をす

る権利は正当化できない」(『環境倫理学のすすめ』)
奴隷に権利を与え、女性に権利を与える延長線の話として自然物にも権利を与えるべき、というのはあまりにも乱暴な話である。人間はとりあえず特別だと考えなければ仕方がない。⑤人間中心主義からの脱却などかっこいいことを言ってみても、それを考えているのはその人の脳である。だから、これは脳中心主義の一種であろう。自然物にも生存権があるなどと考えているのは人間だけで、自然物はそんなことを考えたりしない。

- (注5) 種……生物の種類。
- (注6) 脱却……ぬけ出ること。

しかし、一見かつこよく見えるこういった意見の最大の問題は、人間の生存のためなら牛や小麦を食べてもよいが、趣味や贅沢のためには殺してはいけない、というトンチンカンな考えにある。(イ)人間の生存と遊びや趣味や贅沢が区別できるとの考えほど傲慢な思想はないと私は思う。

牛など食べたことのないアフリカやアジアの最貧民から見れば、西洋人は趣味か贅沢で牛を食っているに違いないからだ。一万数千年前の狩猟採集生活をしてきた先祖に比べれば、ほとんどすべての現代人は贅沢三昧の暮らしをしているに決まっている。そしてその贅沢三昧の暮らしを生存のための必要最小限の条件だと考えているに違いない。

人は生き延びるためにのみ生きているわけではない。人生に何らかの楽しみを見い出して生きていくのだ。たとえば家庭菜園で野菜を作っている人がいる。害虫の蝶が飛んできて卵を産み付け、いも虫がいつぱい発生する。ある人は、見つけ次第いも虫をつぶし、ある人は農薬をまいていも虫を殺し、ある人はいも虫に野菜を食べ放題にさせておこう。いも虫を殺しても殺さなくとも人間の生存には何の影響もない。みんな趣味でやっているのだ。いも虫を殺さない人はほめられて、いも虫を殺す人は非難されるべきだろうか。決してそんなことはないと思う。

(ウ)いも虫を殺すのも生かすのも、家庭菜園を作っている個々人の勝手なのである。虫食いの痕のないきれいな野菜を食べたい人もいるし、虫は嫌いだけれども自分で殺すのはいやな人もいるだろうし、虫食いの野菜でも平気な人もいるし、なんであれ殺生はいやという人もいる。どれを選んでも別に大した問題ではない。いも虫の個体に生存権などあるはずがない。農家の人は、害虫を殺さなければ暮らしていけないから、いも虫を殺してもいいが、家庭菜園をやっている人は趣味で

この生物を利用することは永久にできなくなってしまう。これは、この生物を利用できるかもしれない現在および未来の人の権利を侵害することになる。E、種を絶滅させるのはさけるべきだ。それは種だけではなく生態系についても言える。重要なのは、目的によって自然の利用に価値付けをすることなく持続可能な利用なのだ。

(注7) 侵襲……侵略すること。

池田清彦『環境問題のウソ』

やっているのだから殺してはいけない、なんてバカな話はないのだ。

(エ)ウシやブタは殺して食ってもよいが、クジラは食ってはいけないなんてアホな事を言う人もいる。その理由は、ウシやブタは人間が食べるために飼育している家畜だから、殺して食べても自然保護に反しないが、クジラはAだから、殺すのは自然保護に反するからだ、という。しかし、これはおかしな理屈である。人間はウシを飼うために牧場を作る。牧場は自然の生態系を改変して作ったに決まっている。そこで以前生きていたたくさんの野生生物たちは、永久に生息地を奪われたに違いない。直接、手を下さなかつたにしてもたくさんの野生動物たちは間接的に大殺戮されたのである。

これに対して、クジラを食う行為は、一見クジラを直接殺すので残酷なように見える。しかし、クジラの生息環境を破壊しているわけではない。いっぺんにある種のクジラの個体群の半分も捕ってしまうのは確かに問題だと思いが、回復可能な範囲内で捕って食べるのは別に何の問題もない。むしろ、自然に対する侵襲という観点からは牧場をつくる方が罪が重い。私は別に牧場をつくるのが悪いと言っているわけではなく、ウシを食うよりクジラを食う方が悪いという意見は根拠がないと言いたいだけだ。

自然物に生存権があるという考えは端的に間違っている。我々は回復可能な範囲で自由に自然物を利用してよいのである。生存のためか遊びのためかかわらず、野生動植物の命をもらってかまわないのだ。—— 中略 ——

それでは自然保護はしなくてよいのか。もちろん、した方がよいに決まっている。B、その理由は自然のためではなくて人間のためだ。C、人間がある生物種を絶滅させてしまったとする。D、

問一 — 線部①「口あたりのいい標語」とありますが、どういふことをいうのでしょうか。その説明としてもっともふさわしいものを、次のア〜エから選び、その記号で答えなさい。

- ア もっと大事にされるべき美しいことばだということ。
- イ 口先だけで、中味はまちがったことばだということ。
- ウ 口にすると心地よすばらしいことばだということ。
- エ ひびきはよいが内容が伴わないことばだということ。

問二 — 線部②「それなりの生態系」とありますが、その内容を別の表現で表している部分を、文中から十字以内でぬき出して答えなさい。

問三 — 線部③「自然の力はくできなかったのである」とありますが、人類が自然の機能まで変えることができるようになったのは、何を持ったからですか。文中から五字以内でぬき出して答えなさい。

問四 — 線部④「この人たちは自然物にも生存権を与えよ、と主張している」とありますが、この主張と同様の考えを、文中の~~~~線部(ア)〜(オ)から二つ選び、その記号で答えなさい。

問五 — 線部⑤「人間中心主義」とありますが、それはどんな考え方をいうのですか。文中から十字程度で、「という考え方」に続く形でぬき出して答えなさい。

問十 文中の□ B〜Eに入れるのにふさわしい語を、それぞれ次のア〜オから選び、その記号で答えなさい。

- ア だから
- イ しかし
- ウ つまり
- エ すると
- オ たとえば

問十一 筆者の考えにあっていふものを、次のア〜オからすべて選び、その記号で答えなさい。(解答はひとつとは限りません。)

- ア 地球上の生き物には自然から平等に与えられた生命があり、人間も自然の一部だから生き物を殺したりしない方がよい。
- イ 自然を大切にすることは、決して自然のためではなく人間のためであり、人類が生き延びるためには自然保護が必要である。

ウ ウシやブタなどの家畜とちがってクジラは人間が食べるために飼っているのではないから、捕って食べると自然破壊になる。

エ 楽しみとして家庭菜園で野菜を作るとは自然破壊にはならないが、農薬をまいても虫を殺すことはさけるべきだ。

オ 地球上に存在するどんな生きものでも、人間が利用することによって絶滅することがないようにするのが大事だ。

問六 — 線部⑥「人間の生存のためなら〜トンチンカンな考え」とありますが、なぜ「トンチンカンな考え」だと、筆者はいうのでしょうか。その説明としてふさわしくないものを、次のア〜エから一つ選び、その記号で答えなさい。

- ア 人間が生きていくためには趣味などの楽しみも大切だから。
- イ 現代人の食生活は、先祖に比べればぜいたくなものだから。
- ウ 牛や小麦などは生命のある自然物とは言えないものだから。
- エ 人間の生存に必要なものの範囲を決めることが難しいから。

問七 文中の□ Aに入れるのにふさわしい語を、文中からぬき出して答えなさい。

問八 — 線部⑦「自然に対する侵襲〜罪が重い」とありますが、牧場を作ることが重い罪になるのはなぜですか。その理由を「牧場を作ることによって」に続けて、二十五字以内にまとめて答えなさい。

問九 — 線部⑧「この生物を利用できるかもしれない現在および未来の人の権利を侵害することになる」とありますが、そうならなために、どんなことが大切ですか。それを説明した次の文の()に当てはまることばを、文中から十字以内でぬき出して答えなさい。

自然の() ()をすることが大切である。

解 答 用 紙 (A-1 日 程)

国 語

受 験 番 号

氏 名

得 点

問 題 六							問 題 五			問 題 四	問 題 三		問 題 二	問 題 一	
問十	問九	問七	問六	問五	問三	問一	問七	問五	問一	(1)	(1)	(1)	(6)	(1)	
B	自然の	A						はじめ	(ア)		季節	季語		河口	ゼッコウ
							問八								
									(イ)						
C										(2)	(2)	(2)	(7)	(2)	
											季節	季語		一切	オクガイ
		問八					問九	おわり							
D			牧場を作ることによって						問二						
											(3)	(3)	(3)	(8)	(3)
							問十				季節	季語		登頂	ツウカン
									問三						
E							問十一								
								問六		(4)	(4)	(4)	(9)	(4)	
							A		問四		季節	季語		交	サイシン
問十一	をすることが大切である。						問十二							えて	
								B			(5)	(5)	(5)	(10)	(5)
											季節	季語		反	ナ
							問十三	C						らせて	れた

牧場を作ることによって

という考え方

をすることが大切である。